

トラック輸送情報（平成19年2月分）

平成19年5月16日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：山本、安達 内線28315

直通：03-5253-8344

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

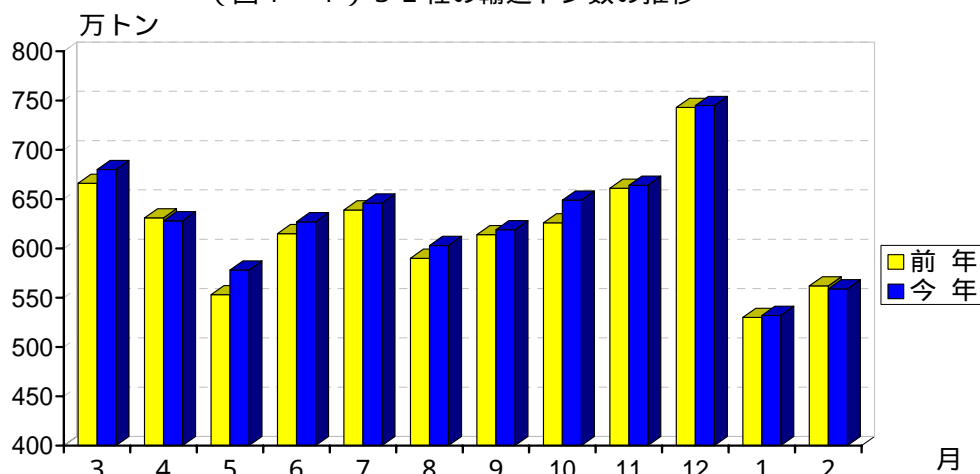
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,590,268トンで、前月と比べ総輸送量が約27万トン増加したため、前月比105.0%（季節調整済み102.7%）となり、前年同月との比較では、約3万トン減少したため、前年同月比99.5%の実績であった。

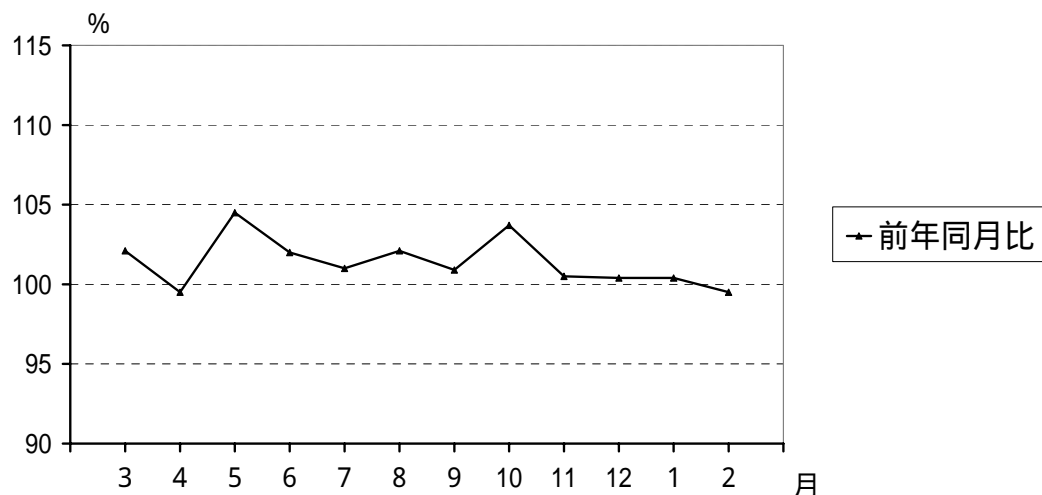
なお、平均稼働日数は22.4日で、前月と比べ0.8日の増加、前年同月と比べ0.4日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、249,566トンで、前月と比べ約3千トン増加したため、前月比101.3%となり、前年同月との比較では、約3千トン増加したため、前年同月比101.2%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

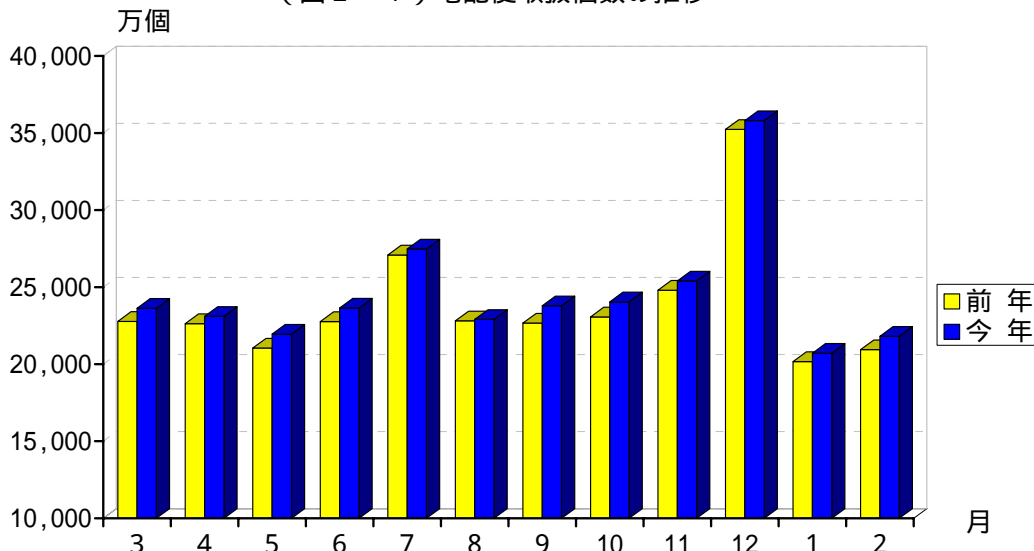


(2) 宅配便の概況

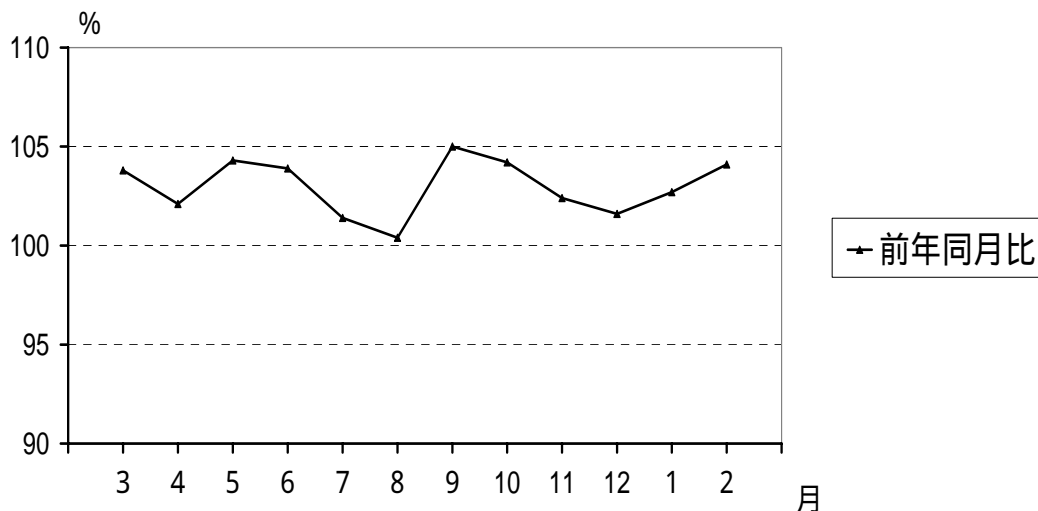
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、218,083 千個で、前月と比べ約 1,098 万個増加したため、前月比 105.3% (季節調整済み 100.8%) となり、前年同月との比較では、約 859 万個増加したため、前年同月比 104.1%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数が増加し、年度末に向けた需要増により、貨物量が増加した。品目別では、全ての品目で増加回答が多かった。増加要因としては、主に工場・生産地からの貨物増、倉庫から出る貨物増及び季節的需要増であった。地域的には、「化学工業品」が中部、大阪で、「その他」が関東地方を中心にそれぞれ増加し、「金属製品」、「機械」、「食料工業品」、「日用品」は全国的に増加した。一方、「繊維工業品」は神奈川、関東を中心に減少した。

前年同月と比べると、貨物量は 10 ヶ月振りに減少した。増減要因の報告をみると、全般的には工場・生産地からの貨物増が多く、地域的には、「化学工業品」が四国を中心に減少したものの、「農水産品」が中国で、「金属製品」、「繊維工業品」が関東地方で、「化学工業品」が関東地方、兵庫を中心にそれぞれ増加し、「機械」、「食料工業品」及び「その他」は全国的に増加している。このように月間貨物量が減少しているのに増減要因の報告で「増加」が圧倒的に多いのは、稼働日数の減少により貨物量は減少したものの、荷動きは活発であると事業者が感じているものと考えられる。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品		2	14	1	1	野菜	
	金属製品	1	4	21	1		その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡
	機械		9	18			電気機械、その他の機械、機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿、中国、福岡
	化学工業品	1	7	19	3		その他の化学工業品	中部、大阪
	繊維工業品		1	26	2			神奈川、関東
	食料工業品	1	8	16	2		飲料、その他の食料工業品、加工食品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿、四国、福岡
	日用品		11	15	3		書籍・印刷物、その他の日用品	北海道、関東地方、九州、全国
	その他	1	8	17	2		百貨店配送品	関東地方
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2		14	2			中国
	金属製品		3	21	2	1		関東地方
	機械	1	5	18	3		電気機械 機械部品	関東地方、大阪、兵庫、九州
	化学工業品	1	5	20	4		その他の化学工業品 その他の化学工業品	関東地方、兵庫 四国
	繊維工業品		3	26				関東地方
	食料工業品		7	15	5		飲料、その他の食料工業品 飲料、その他の食料工業品	関東地方、中部地方、兵庫
	日用品		6	15	7			東京、神奈川、中部地方、大阪、近畿、中国
	その他		9	16	3		宅配便、百貨店配送品	関東地方、愛知、大阪、全国

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 799 社 / 調査対象事業者数 1,066 社）の輸送量は、前月比 103.9%、前年同月比 102.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	103.9%	102.5%	101.7%	105.7%	104.5%	106.0%	110.0%	105.5%	99.7%	103.5%	108.1%
前年同月比	102.5%	103.8%	100.4%	103.1%	101.1%	99.1%	108.7%	103.8%	98.6%	101.5%	112.9%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は 102.5%、対前年同月比は 103.8%であった。品目別には、この時期は各地で冬にちなんだイベントがあることから、「食料工業品」が、好天候により「水産品」が、その他「石炭」等の輸送量が増加した。一方、今冬は暖冬で降雪が少なかったため、「廃棄物」（排雪）が大幅に減少し、前月と同様にビート輸送が終了したため「その他の農産品」が、各種工事の終了により「木材」、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 101.7%、対前年同月比 100.4%であった。品目別には、「セメント」、「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、スーパー、小売業の販売不調から「野菜・果物」、「水産品」が、その他、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 105.7%、前年同月比は 103.1%であった。品目別には、「日用品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が増加した。一方、「紙・パルプ」、「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
北陸 信越	<p>本月の輸送は、対前月比 104.5%、対前年同月比は 101.1%であった。品目別には、「砂利・砂・石材」、「非鉄金属」、「機械」、「揮発油」、「その他」等の輸送量が増加した。一方、「木材」、「その他の窯業品」、「その他の石油製品」、「紙・パルプ」、「日用品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 106.0%、対前年同月比は 99.1%であった。品目別には、建設関係の需要増により「木材」、「セメント」が、その他「日用品」等の輸送量が増加した。一方、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」、「取り合せ品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 110.0%、対前年同月比は 108.7%であった。対前月比が 1 割増加しているが、前月の正月休みのため輸送量が減少していた分が回復したためと思われる。品目別には、「機械」、「繊維工業品」等の輸送量が増加した。一方、「日用品」、「廃棄物」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 105.5%、対前年同月比は 103.8%であった。品目別には、大豆の収穫期のため「穀物」が、年度末にあたり公共工事の増加により「木材」、「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「セメント」が、その他「野菜・果物」、「金属製品」等の輸送量が増加した。一方、販売需要の減少や季節的要因により「その他石油製品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 99.7%、対前年同月比は 98.6%であった。品目別には、「その他の農産品」、「機械」、「セメント」、「紙・パルプ」、「日用品」の輸送量が増加した。一方、「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「揮発油」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 103.5%、対前年同月比は 101.5%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「機械」、「セメント」が、その他「野菜・果物」、「その他の石油製品」、「廃棄物」等の輸送量が増加した。一方、「工業用非金属鉱物」、「化学薬品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 108.1%、対前年同月比は 112.9%であった。品目別には、「穀物」（米）、「その他の農産品」（花卉）、「食料工業品」（ビール等）の輸送量が増加した。一方、価格高騰による業者の買い控えのため、「木材」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増		3		2			2		1	1	9	
	減		2	1	1							4	
2. 野菜・果物	増				1			2	1	3		7	
	減	1	1	1				1	1			5	
3. その他の農産品	増			1				1			1	3	
	減	3		1							1	5	
4. 畜産品	増									1		1	
	減												
5. 水産品	増	2						1				3	
	減	1	2									3	
6. 木材	増	1	1			1		3		1		7	
	減	4			1					1	1	7	
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増	2										2	
	減												
9. 金属鉱物	増		1									1	
	減												
10. 砂利・砂・石材	増	2	1		5			3		5		16	
	減	6	1						1			8	
11. 工業用非金属鉱物	増				1	1						2	
	減		1							1		2	
12. 鉄鋼	増						1	3		2		6	
	減	1	1				1	2	1	1		7	
13. 非鉄金属	増		1		3							4	
	減												
14. 金属製品	増		1	2	1		1	4		2		11	
	減	1	1	2	1		1			1		7	
15. 機械	増	1			2		3	2	2	4		14	
	減						1	1		1		3	
16. セメント	増	2	3		1	1		1	1	6		15	
	減	1	1		1					3		6	
17. その他の窯業品	増		1	1			1	1		1		5	
	減				1	1						2	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	1	1		2						
18.揮発油	減	1							1			2
19.その他の石油製品	増	2		2	1					3		8
	減	2	1	1	2			2				8
20.コークス・ その他の石炭製品	増							1				1
	減											
21.化学薬品	増							1				1
	減							1		1		2
22.化学肥料	増		1	1	1					1		4
	減									1		1
23.その他の化学工業品	増						1					1
	減			1			1	1				3
24.紙・パルプ	増	1	1				1	1	1	3		8
	減			2	1	2				2		7
25.繊維工業品	増					1	2					3
	減					1						1
26.食料工業品	増	3	4				2	4	1	2	1	17
	減	1		2			1	2	1	1		8
27.日用品	増		1	3		3		3	1	1		12
	減				1		1	1		1		4
28.その他の製造工業品	増			4			1	1		2		8
	減		2	1	1			3	1	1		9
29.金属くず	増											
	減											
30.その他のくずもの	増		1									1
	減											
31.動植物性飼・肥料	増					1			1	1		3
	減	1	1						1	2		5
32.廃棄物	増	5								3		8
	減	11					1					12
33.輸送用容器	増	1										1
	減											
34.取り合せ品	増		1	1				1		1	1	5
	減					1		1				2
35.その他	増			5	2		2	1		1	2	13
	減		1	4			1				3	9